

2007年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」種目 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部・教授 氏名： 篠田 武司
研究テーマ	グローバル化と公共性

I. 国際連携先の概要	
提案機関	(機関名) The Institute for Advanced Studies (Lancaster University)
・プロジェクト名	(プロジェクト名) グローバル化と民主政
共同研究機関	(名称) ランカスター大学 (代表者) B.Jessop
II. 研究計画の概要	
今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。	
<p>従来、ランカスター大学の上記「先端科学研究所」との間で「グローバル化と公共性」というプロジェクト名で共同研究を行ってきた。その計画の目的は、第一に年1回の研究会を継続して行いながら先のテーマについて深め、広く国際的に発信することである。第二に、両大学の研究所(先端研:ランカスター大学、人文研:立命館大学)の共同研究にとどまらず、両研究所を研究ネットワークのハブにして、共同研究をさらにグローバルに拡大することである。そのことによって、立命館大学が今求められている知的なグローバル化の一端を担うことである。</p>	
III. 研究成果の概要	
今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。	
<p>2007年度については、昨年度のランカスター大学での国際シンポジウム開催に引き続き2008年3月27日、28日に本学でシンポジウムを予定している。来年度も、このシンポジウムの間はどこでいつ、どういうテーマで開催するのかを反しあう予定であり、これは本研究の(1)の目的が着実に成果を上げつつあることを物語るものである。</p> <p>特に、本年度は、アジアでの研究のハブとなるべく、本「スタートアップ」の予算をいただきアジアでの他大学の連携を追求した。その成果が、中国「き南大学」、また韓国「中央大学」の今年度のシンポジウムへの参加である。両大学は、本研究プロジェクトに積極的であり、この研究プロジェクトを通し、院生の交流、学生の交流へと話が進み始めている。本研究の(2)の目的も、このように成果が現れ始め、「スタートアップ」にふさわしいものとなっているかと思う。</p>	

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。